めざせ！文学の星

ともに俳諧から発生した短詩文型という共通点を持ちながら、
その後はそれぞれに発展してきた俳句と川柳。
世界で最も短い十七音で、どのように表現したらいいのか。
埼玉文芸賞選考委員を務めるその道の達人がその楽しさとエッセンスを余すことなく解説します。

これであなたも、文芸の星！

① 俳句編　2/7（日）14:00～16:00（受付開始 13:30）



講師　佐怒賀 直美（さぬか なおみ）

1958年、茨城県古河市生まれ。1983年、埼玉大学の学生俳句会にて松本旭（「橘」創刊主宰）に出会い作句開始、「橘」入会。卒業と同時に「橘」編集に参加。
2029年、50歳を機に、高校教師（国語科）の職を自ら辞し俳句活動に専念。
2015年、松本旭より「橘」主宰を継承。

現在、俳誌「橘」主宰・俳人協会理事・埼玉新聞俳句欄選者
句集『髪』『眉』『髭』『心』『自註句集　佐怒賀直美集』ほか

② 川柳編　2/21（日）14:00～16:00（受付開始 13:30）



講師　高鶴 礼子（たかつる れいこ）

1955年生。時実新子に師事し、川柳を学ぶ。2005年、川柳誌『ノエマ・ノエシス』を創刊・主宰。
現在は傘下の川柳会を指導するかたわら、男女共同参画・人権・川柳の分野での講師、川柳・詩の賞や大会の選者として、川柳の文学的定位を願って、ささやかに奮闘中。
ノエマ・ノエシス主宰。全日本川柳協会常任幹事。日本文藝家協会会員。
日本ペンクラブ会員。日本詩人クラブ会員。日本現代詩歌文学館振興会評議員。
川柳集：『向日葵』、『ちちちる野辺の』、詩集：『曙光』、『鳴けない小鳥のためのカンタータ』、論考「川柳作家・鶴彬についての一考察」、「山頭火と川柳誌『手』――柳人たちの交歓が残した『全句集』未収載の句」等、著作多数。

- お申込み　**12月15日（火）～ 下部電話番号にて受付**
  受付時間　**9:00 ～ 17:00**
- 会　場　**さいたま文学館2階 講座室1**
  俳句や川柳の経験は問いません。はじめての方も経験者も、俳句や川柳に興味のある方ならどなたでも大歓迎です。
- 定　員　**各講座先着30名**

参加費 **無料**

両講座にお申し込み可能ですが、申込者多数の場合、どちらかお選びいただく場合がございます。ご了承ください。



さいたま文学館 TEL 048-789-1515
彩の国 埼玉県
〒363-0022 埼玉県桶川市若宮 1-5-9 さいたま文学館
※受付時間 9:00～17:00（月曜日、第4火曜日の休館日を除く）
主催：さいたま文学館（指定管理者：株式会社ケイミックスパブリックビジネス）

